



議員 高貴 清 (政和会)

問 山田高校の存続の考え方は

答 存続、発展に向け取り組む

問 来年の入学者が20名以下になると次の年から原則募集ができなくなると聞く。町内外に数多くの人材を送り出し、町づくりになくはならない学舎である。残された期間、町民の心をひとつにして存続に向け臨むべきと考えるが。

佐藤町長 「山田高校を創設するなど、本町

唯一の県立高校である山田高校の存続と発展に向け取り組んでいく。山田高校を取り巻く現状と課題、魅力などを町民の皆様と共有するため、広報やまだ12月1日号で特集を組んだ。今後も存続、発展するように関係機関と連携し、取り組んでいきたい。



魅力ある高校づくりが求められる

問 携帯電話の不感地帯調査は

答 国で実施している調査で把握

問 本町の携帯電話の普及率は。

町長 令和3年度、国が行う調査では県で75・1%である。

問 不感地帯の調査は。携帯電話で気象・災害情報を入手している。住民

の安全安心を考え通信会社等と連携し、調査するべきでは。

町長 町は引き続きエリア整備に向けた要望を行っていく。

問 子どもの居場所づくり団体との連携は

答 計画策定の調査結果をもとに検討

問 子どもの居場所づくり、子ども食堂の取り組みについて実施している団体と住民の方々と連携して、良い事業とするための考えは。

町長 令和6年度「第三期山田町子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、子どもの生活環境等に関する調査を実施予定であり、その結果で関係団体の意見を聞き、子どもの居場所づくりも検討する。

問 取り組んでいる団体を支援する考えは。
濱登健康子ども課長 団体の方とは話をしている。その中で課題もお聞きしたので、町では何ができるのか一緒に考えたい。

その他の質問

- ◆ 「学びの塾」の創設は
- ◆ 特産品開発を産官学、高校と連携しては
- ◆ 起業家支援策で魅力発信は
- ◆ トラウトサーモンで漁業振興は
- ◆ 町道維持整備事業の状況は